

【水の里の旅コンテスト2015 応募企画】

東洋大学 国際地域学部 国際観光学科 道畑ゼミ

また会いたい人をつくる旅
～妖怪と一緒に暮らす村～

観光地域：徳島県三好市 山城町（大歩危・祖谷地区）

【日程】	2泊3日		
【実施時期】	春・夏・秋のはじめ		
【催行人員】	1人～	【お勧めする旅行者層】	親子・ファミリー層
【旅行代金】	22,130円（大人1名） 20,890円（子ども1名） 現地出発とする	【内訳】	
		1泊2食 6,000円×2 12,000円 昼食代 1,000円×2 2,000円 ラフティング 半日・ファミリーコース 5,000円（1日 9,000円） 遊覧船 大1,080円 小540円 妖怪屋敷 大500円 小300円 かずら橋 大550円 小350円 妖怪ガイド料 1人1,000円	
【企画趣旨】			
<p>この旅のポイントは以下の3つ。 1. 森、水、空、自然、 2. 妖怪、 3. 地域の人々との交流</p> <p>町全体で「妖怪」を使った町おこしをしている大歩危は、周囲を山に囲まれ、まちの中央に吉野川が流れる。豊かな森からの水は日本一の水質を誇り、湧き水は飲むことができる。自然を感じさせるアクティビティとしてラフティングなどの遊びも楽しめる。</p> <p>しかし、雨が降ると、増水し、“違う顔”を見せる。そのような危険な顔を見せる吉野川から子供たちを守るために、古くからこの地に伝わる「妖怪伝説」を使い、危ないところに近づけさせないようにして子供たちの身を守った。例えば、淵の上を通りかかると赤子の声が聞こえていると言われている赤子淵や、人を襲い、吉野川を飛び渡った怪物ヤマジチが住んでいたとされるヤマジチの里などがある。妖怪伝説は今でも残り、子供たちのためだけでなく、大歩危・祖谷地区観光の起爆剤として、地域の宝となっている。</p> <p>宿泊は民泊とする。それを運営しているのは地元山城町の住民である。地域を盛り上げようと、地元の食材や体験などで山城町流のおもてなしで、観光客をもてなす。ホテルとはまた違った、地元の住民と密に過ごせる居心地のいい場所を提供する。</p> <p>民泊だけではなく、妖怪屋敷、妖怪ガイドなど、たくさんの地元の人とたくさん話す機会がある。吉野川と妖怪だけでなく、地元の人も含め大歩危・祖谷を好きになってもらうことが、この旅最大の目的である。また、その地元の人に「また会いたい」と思えるような旅を企画した。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足度を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ラフティングの保険や安全指導。 ・妖怪ガイドが付き添って森の中を歩く際の安全確保。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の方が一丸となってもてなして下さる点。 ・地元の食べ物、温泉も数箇所あり。 	
			
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 四国の秘境山城大歩危妖怪村	ガイド・コーディネート	⑤三好市役所 産業観光部 産業観光課	観光地の保護と管理
② 大歩危観光遊船(有)	料飲・遊覧船	⑥山口屋（歩危マート）	地元の商店
③ たかみ荘	民泊施設	⑦	
④ 天空の宿	民泊施設	⑧	
【特記事項】	マイカー推奨（公共交通機関で来る場合はレンタカー推奨、飛行機を利用する場合は、高松あるいは高知空港、鉄道を利用する場合は、三好市内の阿波池田駅で、レンタカーを借りることができる。）		
【催行実績】	有り（実際に夏のゼミ合宿として、学生10名で行きました。このプランを自分達で体験し、大変満足できたため、自信を持ってお勧めします。		

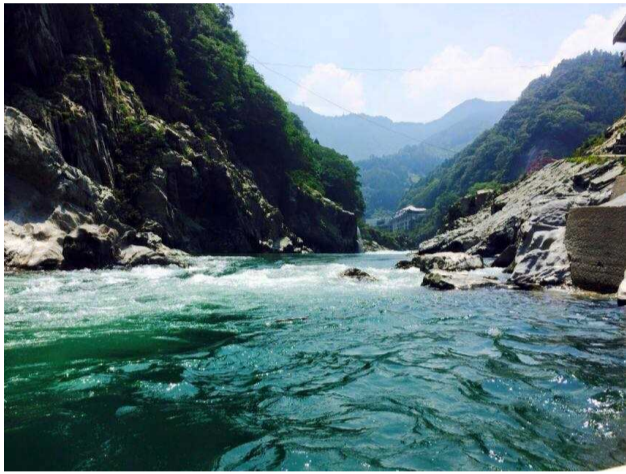
【 行 程 表 】

1 日 目	到着は午後 大歩危遊覧船乗り場にて遊覧船乗船→妖怪ガイド(地元住民ガイド)による里歩き 17時に民泊に到着 (夕食の手伝い等、民泊のおじさん、おばさんとの交流タイム)
2 日 目	早起きしたら、雲海が見える(天空の宿) 9時：ラフティング 12時半：ラフティング終了 13時：妖怪飯(昼食) 14時：妖怪屋敷見学 夜：星空見学
3 日 目	9時 出発 10時 祖谷でかずら橋を渡る お昼は祖谷そば お土産タイム その後はそれぞれの帰路へ

【 主な観光ポイント(観光地・観光箇所の歴史、由来など) 】

【吉野川】	【妖怪伝説】	【かずら橋と吊り橋】
 	 	 
<p>3年連続一級河川の中で水質が一番の吉野川。 急峻な山間の地形が織りなす激流と緩流の連続。 穏やかな場所では遊覧船、急流においてはアウトドアメーカーのモンベルが専門店を出すほどのラフティングの名所。 その流れが生み出す奇岩が両端に迫る。</p>	<p>祖谷地域には数々の妖怪の話が残る。妖怪は祖谷地域の「さがしい」地形を生活していくための知恵として伝わってきたもの。「さがしい」は険しいという意味の方言。 大歩危には60種150か所の妖怪の伝説があり、全国でも類を見ないほど、妖怪が密集している。 大歩危ではコナキジジイが有名。</p>	<p>かずら橋は日本3大奇矯の1つ。本物のかずらで作られた吊り橋。3年に1度架け替えが行われ、今年の2月に完成したばかり。隙間だらけの吊り橋はスリル満点！ そこから感じる景色と心地良い風は気分が爽快になる。 また、吉野川の支流祖谷川には、昔から地域の人の生活に使われている吊り橋がいくつもかかる。</p>

【川のアクティビティ】



日本一綺麗な吉野川。緩急がしっかりしているため、ラフティングをするためには最高のスポット。10月まで楽しめる。流れが急な吉野川も、遊びのプロと一緒に安全に楽しく遊ぶことができる。

【民泊】



滞在中、その家族の一員となり、本格的な田舎暮らしを体験し、その地域のディープな魅力をよりよく知ることができる。その他、そば打ち、花火、魚釣り等、内容はそれぞれの家族のお楽しみ。何よりも、民泊のおじさんおばさんとの話は楽しい思い出がいっぱいになるはず。「また帰って来たい」と思える出会いができる。
早起きしたら雲海が見える。(天空の宿)

【妖怪の里歩き】



妖怪の里歩きのコースには、コナキジジイの石像や様々な木彫りの妖怪像が設置されている。妖怪の里歩きガイドと一緒に、伝説を聞きながら、古道を巡る。また実際に妖怪に出会ったという地元の方の話も聞ける。自分の足で大歩危の道を歩くところで、妖怪をイメージしてみてください。
また、山道の途中には湧き水のポイントがあって、飲むこともできる。

【妖怪飯：ひとつ目丼】



1日20食限定！ひとつ目丼！！大歩危の岩石、山城町の伝説に登場する「青坊主」をイメージしたオリジナルの丼ぶり。地元の食材である猪肉、山菜などを使用している。その他、この地で人を空腹にさせると恐れられていた「ヒダルガミ」に関連した「ひだるラーメン」、かっぱの色をした不気味なソフトクリーム「かっぱーな」は、地元のお茶と竹炭を使っている。

【妖怪屋敷（道の駅）】



日本で唯一の妖怪をテーマにしている道の駅。
なかでは、大歩危に伝わる様々な妖怪の伝説の展示がある。
最後には、妖怪の着ぐるみがたくさんあり、実際に被れる。展示されている70体の妖怪たちは、すべて地元の人々の手作りのもので、地域の人たちの妖怪への思いも感じることができる。

【遊覧船】



レストランまんなかから乗ることができる。約30分のコースで、吉野川の大歩危に行く。
川の両岸には、奇岩が広がり、日本でも珍しい地質が見られる。
国の天然記念物にも指定されている。